

FIM Asia Road Racing Championship 2015

ROUND3 Suzuka Int.Circuit , Japan

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督: 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン: 山本剛大(#11)
兵藤龍之介(#12)
和田留佳(#15)ワイルドカードスポット参戦
- 開催日/サーキット: 2015年7月4日(土)~7月5日(日)/鈴鹿サーキット(三重県 日本)
- マシン: Kawasaki Ninja250
- 結果: 山本剛大 Race1:優勝 Race2:優勝
兵藤龍之介 Race1:3位 Race2:5位
和田留佳 Race1:21位 Race2:9位



アジアロードレースチャンピオンシップAP250ccレギュレーションマシンでの鈴鹿サーキットフルコース走行は、シーズンイン前のプライベートテスト以来になる。そしてワイルドカードスポット参戦の和田留佳選手は、TRICK STAR Racing AP250マシンでのフルコース走行は初めてになるが、どんな走りを見せてくれるか楽しみである。

【7月4日(土) 公式予選】 Qualify 11:40~12:10 天候:雨 コース:ウェット

#11 山本剛大

予選開始計測1周目からトップタイムを記録し終盤までトップをキープする。セッティングを施すためピットインしたタイミングで3番手に。再度コースインし、タイム計測1周目で再びトップタイムを記録しそのまま予選終了。ポールポジション獲得する。



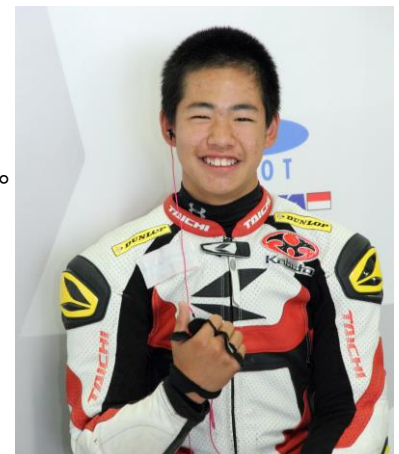
#12 兵藤龍之介

予選開始からマシンのフィーリングが良く、他車のスリップストリームを利用してタイムアップを狙うが上手く利用できない。逆にスリップを利用してしまふ。単独での走行のほうが集中でき予選終了まで走行を続ける。予選終了のチェッカーを受ける最終ラップにベストタイムを記録し4番手につける。



#15 和田留佳

午前中の練習走行で転倒したが、マシンは問題無くタイムアタックを続ける。7番手から8番手のタイムを記録していたが、一度ピットインする。マシンの旋回性が少し悪くフロントサスペンションをアジャストし再度コースイン。和田留佳も予選終了のチェッカーを受ける最終ラップにベストラップを記録し5番手につける。



【7月4日(土) 決勝レース1】Final 1 15:25～ 8LAP 天候:雨 コース:ウエット

山本剛大ポールポジション 兵藤龍之介4番手 和田留佳5番手からのスタート。

#11 山本剛大

スタートはまずまずだったが、1コーナーは2番手で通過。ダンロップコーナーからデグナーコーナーにかけて前車を抜きトップに躍り出る。3周目の1コーナー進入でスリップストリームからライバルに先行されるが、ダンロップコーナーで抜き返してトップに。3・4・5周とファーステストラップを記録更新しながら後続を引き離す。毎週約1.5秒から2秒の差を付け、残り3周を危なげなく走行しトップでチェッカーを受け優勝する。



#12 兵藤龍之介

スタートは上手く決まり1コーナーは3番手で通過。ヘアピンコーナーで4番手に。2周目の逆バンクコーナーで3番手に上がり、更に13ORコーナーで2番手に上がる。シケイン進入で先行され3番手に。3周目の11ORコーナーで前車のインを伺いプレッシャーをかけ、13ORコーナーで2番手に上がる。しかし再度シケインの進入で先行され3番手に。4周目#24に先行され4番手に下がる。この辺りからペースが上がらない。原因はヘルメットシールドが曇りだして前が見えなかったとレース後のコメント。そのままポジションをキープし4位でゴールする。レース後、2番手でゴールした選手が危険な行為をした事による失格で3位に繰り上がる。

#15 和田留佳

スタートを失敗してしまい逆バンクコーナーでは9番手で通過する。デグナーコーナーで他車と接触しそうになり回避したところ白線にのってしまいスリップダウンしてしまう。再スタートするがリアブレーキが効かなく右ステップも大きく曲がった状態で22位完走する。レース後2位の選手失格により21位になる。



【7月5日(日) 決勝レース2】Final 2 15:00～ 8LAP 天候:曇り コース:セミウエット ラインドライ

#11 山本剛大

スタート後、1コーナーはホールショットで通過する。他車が無理やりポジション争いを仕掛けてくるのを避けるため、一度引いてヘアピンコーナーまでに9番手に下がる。しかし1周目終了時点ではトップに。2周目には2番手で通過。3周目の1コーナー進入で再びトップに。そしてこの周からファーステストラップを記録しながら後続を引き離す。3周目終了時点で+1.2秒。4周目終了時点で+2.5秒。5周目終了時点で+3.6秒と毎週1秒以上引き離して行く。その後も危なげなく走行しトップチェッカーを受け、レース1に引き続きレース2も優勝する。公式練習から予選、決勝日朝のウォームアップ、そしてレース1・2まで全てのセッションでのトップを記録する。

#12 兵藤龍之介

1周目はトップになるが2周目に入る時点で4位。2周目のS字コーナー1つ目で3位に上がる。3周目の1コーナー進入で前車のインを刺し2位に。3周目終了時点で3位。毎周、抜きつ抜かれつの2位争いを5台で激しく争う。4周目終了時点で5位・5周目4位・6周目3位・7周目6位。最終ラップも前車に仕掛けて行くが6位でゴールする。レース後上位選手のマシンに違反が見つかりペナルティ失格が課せられ5位になる。

#15 和田留佳

スタートをまたしても失敗してしまい1コーナーは12番手付近で通過する。1周目終了時点で13位。2周目から毎ラップ1台を抜いてコントロールラインを通過しポジションアップしていく。7周目終了時点では7位までポジションをアップさせる。最終ラップのヘアピンコーナーで他車の無理な進入でラインが乱れ先行されてしまい、10位でゴールする。レース後上位選手のマシンに違反が見つかりペナルティ失格が課せられ9位になる。



【ライダー 山本剛大選手 コメント】

予選 ポールポジション

今年初のレインセッションになりましたが、鈴鹿の雨はかなり自信があったのでセッション序盤から積極的にアタックしていきましました。フィーリングもよく最初からトップタイムを出しセッションをリードしましたが、ペースが上がるにつれてリアに気になる症状が出始めたのでピットインをしてセッティングを調整しピットアウトした頃には3番手に落ちましたが、アタック1周目にまたトップタイムを奪い返しそのままポールポジションを獲得しました。AP250クラスでは初ポールポジションだったので、とても嬉しかったです。

Race1 優勝

今回のレース1は今までと違い土曜日開催でした。予選の時より雨が強くなりコースの所々に川ができるくらいまでになりました。スタートは成功しましたが加速ではライバルが勝り2台に抜かれ3位で2コーナーを立ち上がりましたが3コーナーで1台・ダンロップコーナーで1台と直ぐに抜きトップを奪い返しました。2周目のストレートエンドでまたライバルに抜かれましたが、1周目同様ダンロップコーナーで抜きトップを奪い返し、そこからはペースを上げ後続を引き離す事に成功しそのままトップでチェッカーを受けました。ホームコースである鈴鹿サーキットでまずは1勝することができてとても嬉しかったです。難しい雨のレースでしたが集中力を保ったまま攻め続ける事ができました。

Race2 優勝

朝から雨が降ったり止んだりでしたが、運良く昼頃からは雨が止み念願のドライコンディションでのレースになりました。スタートは成功しホールショットを決めました2コーナーでライバルに抜かれ2位になりましたが、S字コーナー2個目で抜き返し、3個目ではまた抜かれ、ダンロップコーナーでまた抜き返しと意地の張り合いをしている内に後続グループに飲み込まれてしまい10位辺りまでポジションダウンしてしまいました。200Rから130Rに入るまでの区間で3位まで挽回しシケインコーナーで2台抜きをしてトップで1周目を終えました。2周目の裏ストレートでライバルに抜かれ2位になりましたがホームストレートで直ぐに抜き返しトップに立ち3周目からは一気にペースアップし34秒台に入れ後続を引き離しぶっちぎりでチェッカーを受けました。

目標通り2レース共に優勝することが出来ました。終わってみれば全てのセッションでトップリザルトを獲得し出来過ぎたレースウィークで自分でもびっくりしていません。普段からレースを支えてくれているトリックスターのスタッフ、鶴田監督 いつも応援してくれているスポンサー様、ファンの皆様、そして自分の家族に、自分の手で君が代を2回お届けすることができてとても幸せな週末でした。

まだシーズンは半分終わったところです。

目標のシリーズチャンピオンまでこの調子で掴みにいけるよう頑張っていきますのでこれからも応援・サポートのほうよろしくお願いします。

今回もとても多くの応援ありがとうございました。



【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】**予選 4位**

予選は少し路面が濡れているだけだったので1周様子を見て、直ぐにタイムアタックをしました。始めは5台くらいの集団で走っていたのですが、なかなかタイムが上がらなかったため、少し離れて集団を追いかけるようにしてタイムアタックをしました。しかし上手く走れず、単独での走行に切り替え、予選最終ラップになんとか良い感じで走る事ができて4番手で終わりました。

Race1 3位

路面は予選の時より濡れていて、特に東コースは滑りやすい状況になっていました。スタートは上手く決まり、始めはトップ集団で走っていました。最初はトップのペースについて行くのがやっとでしたが、周回を重ねるにつれ、だんだんとそのペースにも慣れ果敢に攻めることが出来るようになったのですが、後半になるとさらにペースが上がり、ついていくのが厳しい状況になり4位でゴールしました。結果は2位でゴールしたライダーが危険な行為を行い失格になり、1つ繰り上がり3位ですが、自分の力で勝ち取った3位では無いのですごく悔しい結果です。

Race2 5位

路面は殆どドライコンディションの状況でのレースになりました。スタートもなかなか決まり一瞬ではあったもののトップを走ることが出来ました。2周目は2番手を走っていたものの1台に抜かれ3位に。2位争いを5台で行う様になり集団を抜けるのが厳しい状態になり、いつも自分の弱いシケインコーナーで抜かれてしまい最終ラップ6番手で裏ストレートに繋がるスプーンコーナーを立ち上がり、上手くスリップストリームに付けたのですが、スリップから出るのが早すぎて130Rコーナーで抜けきれず6位のままゴールとなってしまいました。レース後、上位選手のマシンに違反が見つかり5位に繰り上がりました。

非常に悔しいレースでしたが自分の弱いところがいろいろとわかったので次のレースまでに直していきたいと思います。

最後に応援してくれたファンの方、チームの方、スポンサー様、本当にありがとうございました。

次は必ず表彰台に乗るので、応援よろしくをお願いします。



【ライダー 和田留佳選手 コメント】**予選 5位**

予選は最初数台のグループで走行していましたが、スリップストリームを使おうとペースダウンする選手などがいたりして上手く走れなく、グループから離れて集中して走る様になりました。一度ピットインし旋回性が少し悪かったのでセッティングを変更し再度タイムアタックにピットアウトしました。予選の終了チェッカーフラッグを受ける最後のタイムアタックでタイムを更新することが出来て5番手になりました。

Race1 21位

スタートに失敗してしまい、集団に飲み込まれてしまいました。少しでも前に行こうとしていたところ、デグナーカーブでポジション争いをしている他車と接触しそうになりラインをずらしたところコースのペイントされた白線に乗ってしまいスリップダウン転倒してしまいました。直ぐにマシンを起し右ステップが大きく曲がっていましたが再スタートし22位でゴールしました。レース後2位の選手がペナルティ失格で21位になりました。

Race2 9位

今回もスタートを失敗してしまい、集団の中から追い上げるレースになりました。確実に1周1台を抜いて行き最終ラップに入る時には7番手争いのトップまで順位を挽回しました。最終ラップのヘアピンコーナーで無理やりインに進入してくる選手がいて、それを回避してる間に10番手にポジションダウンしてしまいそのまま10番手でゴールしました。レース後、上位選手のマシンに違反が見つかり9位に繰り上がりました。

内容と結果は悔しいですが見直す点が分かりました。いつもは地方選手権のレースに参戦していますが、今回はアジアロードレース選手権というアジア各国の選手が争っているレースに参戦出来たことでとても勉強になりました。レースウィークの経験、2レースの経験、そしてチームの鶴田監督・山本選手・兵藤選手・チーフメカニックさんからのアドバイスなど、非常に勉強になりました。次からのレースにこの経験を活かしていきます。応援していただいたファンの方やチームの方、そしてスポンサー様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



【監督 鶴田竜二 コメント】

アジアロードレース選手権鈴鹿ラウンドAP250クラスでレース1・レース2どちらも山本剛大選手が見事に優勝を果たしてくれました。

彼はプラクティスから予選・決勝日朝のウォームアップ走行までも全てにおいてトップタイムを叩き出し、パーフェクトな勝利でした。

また今回は天候が不安定で難しいコンディションでありましたが勝利に向け高い集中力をチーム全体で共有できた事も勝利に大きく影響出来たと思います。山本選手とそれを支えるスタッフは本当に良く頑張ってくれました。

また兵藤龍之介選手も頑張ってくれました。オープニングラップでトップに立つ場面もあり、結果的に山本選手には離されるも最終ラップまで2位争いを繰り広げてくれました。最終的には3位と5位という順位でレースを終えましたが、今後期待できる内容だったと思います。

今回ワイルドカードでスポット参戦した和田留佳選手も頑張ってくれ、レース1での転倒にもめげずレース2では6番手争いの先頭を走っていました。最終ラップの激しい攻防で順位を落とした形になりましたが9位でゴールしました。彼も今後期待出来るレース内容だったと思います。

それぞれのライダーが健闘してくれて日本をはじめアジアに大いにアピール出来たと思います。

初戦のマレーシア、第2戦のインドネシア戦でアクシデントがあり、我々に取って不利に働いてしまい不運でしたが、今回はしっかり勝つ事ができ今までの流れを変えて行けると確信しております。

今回、私たちを支えて頂いたスポンサー様、熱い応援を頂きましたファンの皆様、関係者の皆様 本当にありがとうございました。皆さんの御陰で今回の良い結果が出せたと思っております。今後も高い意識と誇りを胸に邁進してまいります。

